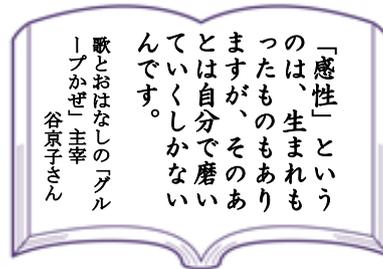




むすぶ



「感性」というのは、生まれもったものもあるかもしれませんが、そのありとは自分で磨いていくしかないんです。
歌とおはなしの「グループかぜ」主宰 谷京子さん

県内3会場で実施 読み聞かせ研修会&交流会

県は、読み聞かせのスキルアップとボランティア同士の情報交換を目的とした「読み聞かせ研修会&交流会」を行いました。6月16日(火)秋田市、18日(木)大仙市、23日(火)大館市の3会場で、延べ200人のボランティアが参加しました。

研修会では、歌とおはなしの「グループかぜ」を主宰する谷京子さんが講師を務めました。30数年の実践経験を基に、読み聞かせの実演を交えながら、「どんな本を読んだらいいか」「どうやって読むか」ということについて講義しました。

【本の選び方について】

- ロングセラーで「良い本」と言われてきたものを、まず100冊読んで本を選ぶ力を身に付けるとともに、今の時代の作品からも選ぶようにしましょう。
- 評判になった絵本に飛びつかず、自分自身で吟味したり書評を読んで勉強したりしましょう。
- よく見えるという理由で、安易に大型絵本を使うのは考えものです。絵のニュアンスが変わってしまうことがあるからです。
- おもしろい本だけでなく、噛み応えのある本も交えて、組合せの達人になってください。
- 毎回全ての子どもに受け入れられる本を選ばなくても大丈夫。特定の子どものために読む本があってもいいのです。



紹介された絵本を見る参加者

【本の読み方について】



BGM付きの感動的な読み聞かせ

- ページのめくりで、読み聞かせの善し悪しが決まることがあります。場面に合ったタイミングを考えましょう。
- 教えるように読むのではなく、すてきなものを語るように読みましょう。
- 絵本から遠くて絵が見えなくとも、子どもは読み手の言葉の調子やトーンを手がかりに、心の目で絵を描くことができます。
- 悲しい場面を悲しく読む必要はありません。絵本に描かれた摂理を教える大人が感情に流されないことです。
- 読み手が、何に怒り、悲しみ、喜んでいるのか、読み方で子どもに伝わるものなのです。
- 本を読むことは子どもにとって冒険。だから、信頼できる大人が読んでくれると安心するんです。

交流会では、参加者全員が小グループに分かれ、持ち寄った絵本の魅力について話し合ったり、それぞれの活動を紹介したりして交流を深めました。

平成27年度 新館オープンの図書館！

鹿角市立花輪図書館

鹿角市立花輪図書館は、4月16日(木)、「鹿角市文化の杜交流館コモッセ」内にオープンしました。



カルタの盛んな地域にふさわしい様々なカルタの貸出

温かみを感じる木の床、採光を考えた広々とした窓、奥行きを感じさせるガラスの壁、ほどよい高さの書架、柔らかな明るさを演出する間接照明など、デザインは都会的でありながら居心地のよい図書館です。自動貸

出機や蔵書検索機が複数台設置されており、読みたい本を素早く見付けて貸し出し手続きが行えます。

また、中高生向けのヤングアダルトコーナーは「ボーイズコーナー／ガールズコーナー」、高齢者向けコーナーは「プラチナコーナー」と、年代に応じた書架のネーミングにも工夫が見られます。

八郎潟町立図書館

5月1日(金)、図書館が主体の複合施設「えきま交流館・はちパル」がオープンしました。県と市町村が財源を負担し地域活性化に取り組む「県市町村未来づくり協働プログラム」に基づく事業です。今年度は、県立図書館職員が館長として赴任し新館のサービスや業務体制の整備に当たる一方、町の職員が県立図書館で実務研修を積むという、人事交流を行っています。

図書館は干拓前の八郎潟で使われていた「打瀬船」をイメージした形と木のぬくもりを感じさせる内装になっています。開館記念展示「わたしの1冊-My Best choice-」には、延べ59名の方が推薦する図書が紹介文とともに展示されました。



好評だった紹介本の展示



本好きな大人たちが楽しむ読書イベント



お気に入りの本を紹介し、聞いていた人たちが一番読みたくなった本を投票で決めるビブリオバトル。大好きな絵本作家を囲んでの夜なべトーク。大人たちが読書イベントを大いに楽しんでいます。

ビブリオバトル@ハーモニープラザ

秋田県中央男女共同参画センターが主催する「ブックフェア」に合わせ、6月20日(土)、ビブリオバトルが行われました。会場となった秋田市のアトリオン6階のハーモニープラザに、8名の発表者(パトラー)たちが、「イチ押し1冊」を持ち寄りて紹介しました。



和やかな雰囲気のパトラー

自分の仕事のバイブルとなっている本、戦う女性の生き方に強い感銘を受けた本、被災者支援ボランティア経験と重ね合わせた本などの魅力が、大人の視点で語られました。参加者全員の投票によりチャンプ本を獲得したのは、「いじめと民俗学」(著・礪川全次/田村勇)でした。

参加者たちは「その人の人間性が表れるものなんです。」「面白かった。」と話していました。

ものがたりで読む日本のこころ

7月11日(土)、美郷カレッジにおいて絵本作家永田萌さんによる講座が行われました。

永田さんは美郷町の美しい風景と文化、松田町長の情熱に魅せられて美郷大使を務めています。講座では、昔話の中に見られる日本人の心についての分析、挿絵を示しながらの作品解説、新境地となる『おじぞうさんはいつでも』の紹介などが語られました。

「小さなものに霊的力を与えること」「異形のモノを大切に育てること」「いい者、悪い者に、相当の報いがあること」など、昔話のパターンの提示や、自身の「かぐや姫」「赤いろそくと人魚」等の絵本の解説に、約60名の受講者たちは、大きくうなずきながら聞き入っていました。



美郷カレッジの第2部は永田さんを囲んでの「夜なべトーク」



学校の
読書活動紹介

平成27年度子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰 小坂町立小坂小学校



【読書活動の充実】

日課表に全校読書の時間「読書タイム」を位置付けているほか、月2回、30分間の「たっぷり読書の日」を設定しています。また、地域のボランティアによる読み聞かせ会も実施しています。

【児童による委員会活動の充実】

高学年児童が下級生や町内の保育園児に読み聞かせを行っています。また、おすすめ本を選定し、集会や図書便りで紹介しています。

【授業における活用】

国語科を中心に、読書の幅を広げ多様な読み物に触れさせる指導を行っています。司書教諭と、町が



保育園で読み聞かせする6年生

配置している図書支援員の連携により、授業で使用する資料を学校図書館だけでなく、町立図書館や県立図書館からも準備し、調べ学習を充実させています。

平成27年度「秋田県読書絵はがきコンクール」募集開始



今年度も、幼児から中学生までを対象に、「読書絵はがきコンクール」の作品募集を開始しました。

子どもたちが読書や読み聞かせで得た感動を、誰かに伝えようと絵で表現することで、想像力を養い読書への関心を高めるものです。

詳細については生涯学習課ホームページをご覧ください。

● 応募受付期間

7月1日(水)～9月25日(金)

● 応募方法

秋田県児童会館に持参または郵送
〒010-0955 秋田市山王中島町1番2号
「読書絵はがきコンクール」係

秋田県教育庁生涯学習課

生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>